

－沖繩の文化－

1 琉歌

琉歌は八音を中心に、五音・六音・七音を標準とする定型詩である。基本的には「サンパチロク」といわれ、八・八・八・六を基本形とする。

2 歌人

□ 吉屋 チルー

(よしや チルー、1650年 - 1668年)は、琉球王国の遊女で歌人(琉歌)。「吉屋チル」「よしや」「吉屋」とも表記する。

チルーは琉球語で鶴のこと。「吉屋」という置屋の遊女だった。古くはただ「よしや」とだけ表記されていたとの指摘もある。吉屋チルーの伝記である平敷屋朝敏『苔の下』には「遊女よしや君」とある。

貧しい農民の娘として生まれ、わずか8歳にして那覇の仲島遊郭へ遊女として売られた。

吉屋 チルーが詠んだ琉歌

うらむ比謝橋や 情け無いぬ人の 我身渡さと思て 架けて置きやら
うらむふいじゃばしや なさきねんふいとうぬ わみわたさとうむてい かきていう
ちやら

(恨めしい比謝橋は、お情けのない人が私を渡そうと思て架けておいたのでしょうか)

□ 恩納 なべ

(おんな なべ、琉球語:うんな なびー、生没年不詳)は、18世紀の琉球王国の農民・女性歌人(琉歌)。

沖縄本島北部の恩納間切の農民の娘として生まれた。本名は「なべ」といい、一般に恩納なべ(恩納ナビー)と呼ばれる。なお、実在を疑問視する説もある。

農民の心情や情熱的な恋愛を力強く詠う作風で王国時代の女流歌人として吉屋チルーとならび称される。恩納村には歌碑が建立されている。

恩納 なべが詠んだ琉歌

恩納松下に 禁止の碑たちゆす 恋しのぶまでの 禁止や無いさめ
うんなまちしちやに ちぢぬふえたちゆす くいしぬぶまでいん ちぢやねさみ
(恩納の松の木の下になにやら禁止の立て札が立っているというが、まさか男女の恋を忍ぶことまで禁ずるようなおふれではないでしょう。)

3 「組踊」

□ 玉城朝薫(たまぐすくちょうくん 1684～1734) 組踊の創始者

- ・組踊2番「二童敵討」「執心鐘入」
- ・組踊3番「銘苺子」「女物狂」「孝行の巻」

□ 平敷屋朝敏(へしきやちょうびん 1700～1734) 和文学者

- ・組踊・・・「手水の縁」
- ・著書・・・『若草物語』『貧家記』

□ 田里朝直(たさとちょうちよく)

- ・組踊・・・「万歳敵討」「義臣物語」「大城崩」「北山崩」「未生の縁」

4 沖縄学

- 伊波普猷（いは ふゆう 1876～1947）
沖縄の歴史や文化の研究に一生をかけた。沖縄学（沖縄の言語・歴史・民俗など）の創始者で「沖縄学の父」といわれる。
◇著書・・・『古琉球』『校訂おもろそうし』
*校訂・・・古書などの本文を、他の伝本と比べ合わせ、手をいれて正すこと。

- 東恩納寛惇（ひがしおんな かんじゅん 1882～1963）
沖縄歴史学の権威「東恩納寛惇」
漢文の書籍に明るく、その方面からの豊富な資料をもとに、沖縄の研究に多大な業績をのこした。
東大在学中に『大日本地名辞典』の琉球の部を執筆した。
◇著書・・・『南島風土記なんとうふどき』『琉球人名考』『童景集どうけいしゅう』
『黎明期の海外交通史』

5 染物

- 「紅型」（びんがた）
紅型は沖縄らしい鮮明な色彩と力強い造形をもつ染物で、型紙を使用した型染めと、糊を筒から絞り出す筒描きがある。
藍だけで染めたものを藍型（エーガタ）といい、多色使いのものと区別している。

6 織物

- 首里の織物
首里は琉球王国の本拠地、芸術文化の中心地であった。その首里では、王族・士族が着用するため「花倉織」などきわめて高度で上質な織物が多種類生まれた。

- 芭蕉布
芭蕉布は沖縄を代表する織物である。周辺のアジア諸国でも、芭蕉科の植物の繊維で、素肌に着けられるほどしなやかな布をつくる国はほかにない。風通しがよく、汗をかいても肌につかず、まさに亜熱帯の沖縄が生み出した織物といえる。
芭蕉布はどの地域でも盛んに織られた。また、高度な技術を発展させ、琉球の特産品として重要な貢物・貿易品となった。

- 宮古・八重山の上布
沖縄で古い歴史をもつ苧麻（ちょま）の織物。
琉球で「上布」とは、イラクサ科の「苧麻」から採った細く上質な糸で織る布をさす。
宮古・八重山地方は、租税の一部を反布（たんぷ）で納める貢納布制度がしかれ、上布の清々しい美しさとは裏腹に、過酷な歴史をもっている。

- 久米島紬
真綿から紡いだ糸で織られる久米島紬は温かみと天然の色合いが特徴である。
また、貢納布としての歴史をもつ。

- 読谷・知花の紺地花織
本島中部の読谷や知花地方では、紺地に白や赤、黄などの色糸を織り込んだ大らかで自由な雰囲気の花織衣装がつけられた。

7 ユネスコの世界遺産（文化遺産）

- 琉球王国のグスク及び関連遺産群（りゅうきゅうおうこくのグスクおよびかんれんいさんぐん）

琉球王国のグスク及び関連遺産群（りゅうきゅうおうこくのグスクおよびかんれんいさんぐん）は、沖縄本島南部を中心に点在するグスクなどの琉球王国の史跡群から構成されるユネスコの世界遺産（文化遺産）である。2000年に日本で11件目の世界遺産として登録された。

なお、各グスクの登録の名称は「じょうあと」で、「ぐすくあと」、「じょうせき」とはしていない。

- ◇ 今帰仁城跡（なきじんじょうあと） ◇ 座喜味城跡（ざきみじょうあと）
◇ 勝連城跡（かつれんじょうあと） ◇ 中城城跡（なかぐすくじょうあと）
◇ 首里城跡（しゅりじょうあと） ◇ 園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）
◇ 玉陵（たまうどうん） ◇ 識名園（しきなえん） ◇ 斎場御嶽（せーふあうたき）

〈 参考文献 〉

- | | |
|------------------------------------|--------|
| ◇ 19年度版 『沖縄県の教職・一般教養 過去問』 | 協同出版 |
| ◇ 即線ゼミ 入試頻出 『標準国語問題総演習』 有座俊史 編著 | 桐原書店 |
| ◇ 何でもわかる 『新国語ハンドブック』 平井昌夫 著 | 三省堂 |
| ◇ 『沖縄歴史人名辞典』 島尻地区小学校社会科研究会 | 沖縄文化社 |
| ◇ 『琉球歴史の謎とロマン』 その二 亀島 靖 著 | 沖縄教版 |
| ◇ 琉球・沖縄『歴史人物伝』 新城俊昭 著 | 沖縄時事出版 |
| ◇ 2011－2015年度検定 『沖縄歴史検定』 沖縄歴史教育研究会 | 東洋企画 |
| ◇ すぐわかる『沖縄の美術』 宮城篤正 監修 | 東京美術 |
| ◇ 『新総合国語便覧』 三好行雄 稲賀敬荘二 森野繁夫 監修 | 第一学習社 |
| ◇ 19年度教員採用試験『一般教養 演習問題』 | 時事通信社 |